



## 今、なぜ中核病院が必要なのか

# 第4回 中核病院形成検討委員会を開催

11月20日、第4回中核病院形成検討委員会を開催しました。今回は、検討スケジュールの見直しを行った後、前回に引き続き、診療科目・医療機能・病床規模の検討を行いました。

### 協議事項

#### ①検討スケジュールの見直しについて

前回の委員会での、「十分に時間をかけて関係者間で議論を尽くすべき」との委員意見を踏まえ、検討スケジュールの見直しを行いました。協議の結果、検討委員会の報告書取りまとめの時期は「令和3年8月」を目途とし、中核病院の開設時期は「令和5年4月」を目標とすることを確認しました。

	日程	内容
第1回	R2.1.31	・基本的な方向性、経営形態の検討
第2回	R2.7.7	・基本的な方向性、経営形態の確認 ・2病院の機能の比較 ・診療科目・医療機能・病床規模の検討
第3回	R2.8.27	・診療科目・医療機能・病床規模の検討
第4回	R2.11.20	・診療科目・医療機能・病床規模の検討 ・2病院の機能分化、施設の活用方針の検討
第5回	R3.2月	・診療科目・医療機能・病床規模の仮決定 ・2病院の機能分化、施設の活用方針の検討 ・経営シミュレーションの検討
第6回	R3.5月	・診療科目・医療機能・病床規模の調整 ・2病院の機能分化、施設の活用方針の仮決定 ・経営シミュレーション・報告書案の検討
第7回	R3.7月	・経営シミュレーションの確認 ・報告書(最終案)の決定 ・継続検討課題と検討組織体制の整備の確認
第8回	R3.8月	・報告書まとめ

#### ②診療科目・医療機能について

国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータの分析結果から、市民の疾病別の医療機関の受診動向や、今後見込まれる医療需要等について説明しました。

また、両病院の医師配置の現状と今後の見込み、ワーキンググループでの協議内容、市民等から寄せられた意見について報告しました。

#### ③病床規模について

両病院の入院患者実績や将来推計入院患者数等により仮試算した必要病床数案について、説明しました。

#### ④2病院の機能分化・施設の活用方針について

中核病院の基本的な方向性を踏まえ、今後の両病院の連携パターンを整理しました。

### 委員からの主な意見

- ・完結率や流出率という数値だけでなく、どのような病院を目指すのかといった方向性を含め、しっかり考える必要がある。
- ・人口が減ってくるとさまざまな機能を維持するのが難しくなり、医師の確保も困難になってくる。萩圏域だけで全て完結するのは無理であり、他圏域との連携を考えていかななくてはならない。
- ・地域医療を守る条例を制定しているところも多い。将来を見据え、市全体で医師を確保するという機運を高めてもらいたい。
- ・疾病によっては、市外の病院で治療しても術後の経過を萩で診る等、医療連携により市外流出患者を呼び戻せる可能性がある。受入が見込まれる病床数を加えてもよいのでは。
- ・高齢化が進む萩市では、急性期は脱しても、在宅までの治療が必要な患者等の増加が見込まれるため、中核病院にはそのような患者を受け入れられる地域包括ケア病棟が必要。
- ・医療機能を考える上で財政面も重要。市民から意見のあった高度な医療の提供等に対しては、試算を行い、具体的に数字を提示できれば、市民に理解してもらえるのでは。

★会議の議事概要、資料は市HPに掲載しています



### 市長との意見交換会を開催

～市長と話そう！

萩の医療のこと、中核病院のこと～

■と き 1月11日(月)

13:30～15:00(事前申込制)

■ところ 総合福祉センター多目的ホール

■申込方法 1月6日(木)までに、中核病院形成推進室へ電話・FAX・メールのいずれかで氏名・住所または所属団体・電話番号を連絡

■中核病院形成推進室 ☎ 21-3120 FAX25-1520 メール tyuukaku@city.hagi.lg.jp